

エッセイ Essay



ルーマニアと日本の架け橋 からコミュニティ作りへ!

アルテ・ソロレス 店長
災害時通訳・トライリンガルボランティア

プリサカリウ・ヴァレンティーナ

日本に初めて興味を持ち始めたのは、友達から「日本の高速道路はすごい!」という話を聞いてからです。ルーマニアでは、道路が整備されておらず、なかなかスムーズに早く走れません。そんな高速道路から始まった私の日本への興味は、富士山へ登ること、着物や浴衣そして藍染へと広がっていきました。そして念願である日本への海外旅行から15年。現在は、日本で結婚し、ルーマニアワインとアート専門店の店長をする傍ら、災害時通訳ボランティアとして活動をしています。

豊橋に来てから、特に困ったことは漢字が読めないことと、交通手段でした。どこへ行くにも買い物するにも漢字が読めないと意味が分からないし、車がなければどこにもいけません。ちょうどその頃、友達から豊橋市国際交流協会(TIA)で日本語の勉強ができることを知りました。TIAの「にほんごきょうしつ」には私と同じように、日本語を学んで生活に慣れようとする外国人がたくさんいました。そこで日本語能力試験1級をとることを目標に、友達と勉強を始めました。

そして災害時通訳ボランティアも「にほんごきょうしつ」の友達から聞きました。豊橋を含む東海地方はいつか大きな地震が来ると言われています。私はルーマニア語、日本語、英語の3か国語を喋るので、語学を活かして豊橋に住む外国人に、避難場所はどこになっているか、そして家族の避難場所はどこなのかを決めておくことを伝えたいと思います。そして地震に備えて、豊橋に住む外国人の助けになりたいと思っています。今までに、豊橋市消防本部消防救急課が開催する普通救命講習に数回参加しました。その講習会では、応急手当の必要性や心肺蘇生法(CPR)を学んで修了証をいただきました。他にも、救命講習や防災訓練があれば参

加するようにしています。それは地震が来たときに冷静に対応できるか心配だからです。実際地震が来たら怖くて身動きできなくなるのではと不安になります。でも救命講習会など何度も参加することで自信をつけたいと思います。まずは、お年寄りや子供達など身近な人の役に立ちたいと思います。

日本に来て、人と人との繋がり、そしてコミュニティの大切さを感じました。それは、震災のような緊急事態にこそコミュニケーションが大切になってくるからです。

私が店長を務める店の活動でもコミュニティを育てる大切さが原動力になっています。私の店は、ルーマニア産ワインを始め、工芸品などを紹介して販売しています。最近の私の活動としては、ルーマニアの伝統的なブラウス‘イエ’をPRする為、日本在住のルーマニア人に呼びかけ、SNSで紹介を行っています。豊橋インターナショナルフェスティバルでは、他県からも豊橋に来てもらい、ルーマニアの民族舞踊やクリスマス聖歌を披露しています。

このように、日頃のネットワークの広がりが、何か助けになることがたくさんあります。ルーマニア人のネットワークの広がりから、外国人同士のネットワーク、さらには日本の各地域(私の場合では豊橋)での広がりが、コミュニティの結束につながれば良いと思います。



豊橋市消防本部で開催された救命講習会